

市民文芸

短歌

令和七年度第五十四回
阿南市秋季短歌大会 選

入選

甲子園の決勝社員食堂で百人の眼を釘付けにする
安本 拓史

前衛書迷路のごとき墨痕の余白に書家の魂の見ゆ
谷本 良裕

いささかなカルチャーショック帰省子の少し慣れたる都会のことば
喜来富士子

毎朝のあいさつまずは蜜蜂に花粉を小脇にかかえ
安本 生美

いじらし
森岡 圭子

久々に吹くオカリナは里の田の緑の波を悠悠渡る
勢井 恒子

明日よりもこの一刻を心して踏みゆくべし白寿なる道
山野 賢治

夏の日の無色無臭の夜は明けて灼熱の午後熱帯の夕
横山みつ枝

彼岸花真紅にさかし畦道は誰が影を待つ秋のよそおい
五島 秀子

言い訳に小さな嘘を入れるのは弱みを見せぬ母の虚勢よ
湯浅 節子

突然に友の死を知る孤独死とありえぬことと受け入れられぬ
弘明寺 昭

アスファルトが靴にまつわる油照り免許返納悔やむ日ありぬ
五島 秀子

立ち居れば原爆ドーム歳かさね「ピカドン」と言う素朴な造語
小畑 定弘

失いし心の奥にも春がきてひとりの女人偶ぶ日ありぬ

俳句

阿南市俳句連合会 選

蝸梅の匂ひ届けに友来たる
久米 浩一

湯豆腐やなべを囲みて団欒す
岡田 茂子

竹林の窯の中より二月来る
藤崎 恵竹

土落とす春耕終えしトラクター
横井 知昭

おでん鍋みんなの話はずみたる
谷 由美子

初句会意気込みだけが空回り
鳥海 勇二

あれこれと世話やく翁どんど焼き
田上 隆敏

嘯むほどに入れ歯外るる雑煮餅
横手鉄格子

古草をかぶる河川や下萌える
米田 豊子

車輛置く港の公園梅二月
大西 裕子

川柳

阿南川柳会 選

値上がりの宿泊旅行音を上げる
佐藤つたえ

嫁ぐ前涙隠しのふざけっこ
篠原 良子

優しさを抱き寄せている家族会
鈴木レイ子

行く宛もない日はまるで猫のよう
多田紀久代

手抜きして生きておりますマイペース
野村 敏子

聞く耳はまるでないのか上の空
橋本 征介

耳の穴嬉しい事を聞きたがる
若木アヤ子

一般応募
幸せを運ぶ春風小窓開け
島尾美津子

姿見が背なを伸ばせと叱咤する
武田 敏子

想い出を写真で巡る昭和旅
福島 義明

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

花時懷郷
原 美智子

行尋勝景逐晴光
行く勝景を尋ねて晴光を逐う

溪澗花開春水香
溪澗花開いて春水香し

稚日庭前梅杏似
稚日の庭前 梅杏似たり

東風切誘蕨薇郷
東風切りに誘う 蕨薇の郷

全日本漢詩徳島大会
折野 博子

清秋好日約阿州
清秋の好日 阿州に約し

日本鷗盟会雅楼
日本の鷗盟 雅楼に会す

優秀佳詩燦然作
優秀の佳詩 燦然の作

揮毫吟舞 玄幽を醸す
揮毫吟舞 玄幽を醸す

春日薬師寺に賽す
大野シゲ子

先登石磴賽人連
先ず登る石磴 賽人連なり

花庇僧堂隔俗縁
花は僧堂を庇いて俗縁を隔つ

如来法界鳴鐘起
如来の法界 鳴鐘起こり

遍照仏光幽又玄
遍照の仏光 幽又玄

